



野積海岸の賑わい。バギー車や四輪駆動車が波打際まで入り色とりどりのテントが林立。バーベキューの匂いについ腹の虫が反応する。



中央海水浴場脇のキャンプ場は仲々の人気。トイレ、水道、買物に便利の上無料とくれば賑わわないわけがない。



今年のお墓参りは暑いのを除けば絶好のコンディション。最近はお出足が早く夜になったら仲間シャッターチャンスがなくて困った。

キャンセルばっかかどうにもなりませんが、やきで始った今年の夏だったが、あの大雨は何だったのと言ふようなカンカン照りの熱暑。この暑さなら充分挽回可能と「その後お客さんほど

台風一過 寺泊の夏終る



月刊 第 577 号

「がもんだね」と民宿のおかみさんに聞いて見ると、「たまに電話が入っても、海は汚ったねなりまじわね。はい、わきれいにしたいね。あーそうですか。ガッチャン。こんがもんで

まともにお客さんが入っているのは土曜日くらいのもんですね。今年ばっかしやどーにもならねわね」との返事。あの水害の報道で寺泊も避難勧告が出された市町村の仲間入りしてしまっことが尾を引いて祟っているらしい。その上夏休みに入ったとたんの二十五日の夕方は猛烈な雨と雷で町内の一部が朝まで停電、その民宿も停電地域に巻き込まれたそうで「ほんね踏んだり蹴ったりだてばね、それでもお客さんはおめさんちのせいじゃねすけ仕方ねこてねとクラーもなし、風呂もなしで我慢してくれなすたすけ申訳けねろもほっとしています、ローソクでの夕飯は子供達は結構面白ろ

がっていたみたいで、調理場も客室もローソク立ててのことで、法事のローソクがこんが時役立てとは思いもみせんでしたことね」と話の調子から想像するに記録的な猛暑とお天気つづきでお客さんが増え始めているような気配が感じられた。毎年七月は法務省提唱の「社明運動」の強調月間で今年も寺泊の魚の市場通りでこの地区の保護司会が広報活動を行った。試みに誌友で千葉在住の五十嵐さん(寺泊荒町出身)の所でウチワ五百本に第五十四回社会を明るくす運動「われを愛しみひとを慈しむ」と印刷して頂き配ったのだが、われもわれもと引つ張りだこでわずか十分で品切れとなっ

てしまった次第。その後もずっとお天気つづきで海の寺泊としては申分ない夏でいさか水害の影響は引きずりながらも港まつり、お盆と帰省客と観光客で結構賑わった。港まつり花火大会は丁度気温も落ち着いて上々の天気廻りの中で盛況裏に終り、一息入れてお盆を迎えた。日頃あまり掃除の行き届かない墓所もほとんどが十二日まできれいな状態になったが、かつては故郷を離れて手入れする人の居ない墓も誰かが気づづてくれたものだが近頃はゴミの置き場にされたりすることさえあり淋しく情ない限り。十三日は風もなく灯明はとほり尽きるまで燃えつづけていた。

水害被災地を見る

さとうのぶひと

七月十三日（火）中越地方は記録的な大雨に見舞われました。五十嵐川、刈谷田川が決壊し、死者十数名を含む大惨事になり、寺泊でも十個所以上の土砂崩れがあり、一時、避難勧告の出された地区もありました。

その日の朝、吉地内の県道長岡寺泊線をクルマで走った私は、これまででない県道の深い冠水にびっくりいたしました。道路は川と化し、クルマが突っ込んで動けなくなっているのです。すぐ、長鉄の線路跡地、通称「電車道」と呼ばれる道路に上がり、かろうじて難を逃れまし

たが、背筋がひやりといたしました。あれから一カ月以上たち、

「7・13水害」と名付けられ歴史に名をとどめる災害になったのです。

刈谷田川決壊からちようど十日後、被害甚大の中之島町へ災害復旧のヴォランティアに行つてまいりました。一輪車とスコップを愛車の箱バンに乗せ、おにぎり二個にベットのボトルの水、長靴に帽子。身支度だけは一人前です。もちろんマスクも用意しました。

テーブに名前を書き込むと、腕にその名札を貼ってくれました。四囲をきよきよろくしていたら、「はい五人、はい五人、こちらへ」と手を挙げて早口で呼ぶ者がいます。そのNGOの手の下に、一組の夫婦を含む六人が集まりました。中年女性の名札を見ながらNGOは、「あなたも今日一日、このグループのリーダーです」と言つて地図を広げ、現地までの道や被害の状況を説明します。「持つて行く物は、バケツ、雑巾、デッキブラシ、スコップ、一輪車も一台あるといいかもしれません。それと飲料水も」。プロの手配師顔負けの手際よさです。

うずたかく並べられた物資のセクションで、NGOから言われた物もらい、地図を見ながら一輪車を押し、着いた所は刈谷田川決壊のすぐ真ん前のお宅でした。修復されたばかりの堤防の真下に、法華宗の妙栄寺という寺があったようですが、大水に流されて跡形もありません。墓石はすべてなぎ倒され、まとも立っているものは一塔もありません。勢いの凄まじさを物語っていました。

墓地から一軒おき、道路に面した家屋が作業の目的地です。老夫婦だけのお宅で、ご本人はまだ避難場所の町文化会館におられるとのこと。堤防決壊の当日は、お二人ともちようど医者任せにされた親戚の方が言っていました。避難勧告が遅かったとの批判がありますが、この地区の避難場所が流された妙栄寺でもし避難勧告が早くて妙栄寺にみな集まっていたら、計り知れない人的被害を蒙つたでしょう、とも話していました。

親戚の方の指示に従い、まず床下の泥上げです。はぐられた床下は、あれから十日になるというのにまだ水が完全に退いていません。スコップで泥を土嚢袋に流し込み、外に出して水を切ります。敷居や板部分の雑巾がけやガラス拭き。板壁の天井すれすれに喫水線が残っていました。

作業をしながらあれこれ話が



港まつりメインスタッフ揃い踏み。右から西山観光協会会長、伊勢塚議会議長、高橋町長、柄沢県議、解良商工会長、山田実行委員長。



港まつり会場の賑わい。

ひと踊りして渴いた喉をグッとビールで潤して、さて民謡流しへ向っての余裕の笑顔。



民謡流しはやはり見るより踊る方がずっと楽しい。いつも歌謡ショーからの移行のタイミングが少々ずれるのだが、何とかひと工夫を。



今年の港まつりのメインゲストは松原のぶえさん。自分のゴシップも笑いの種にしてのトークサービス。さすがベテラン歌で聴衆を魅了。



渡部橋の下、河川敷の田圃の休耕田を利用して稲文字ワタベ。減反を遊び心で受け止めたか。左奥の松林は良寛由緒の夕ぐれの丘。



本間精一郎生誕の地であり、役場跡であり、戦中からは農協として、全て役割を終っていよいよ解体。今度は何になるのかな。

出ます。「きのうは京都から来てくれましたねえ」と親戚の方の言葉が私に届いた。私のグループで一番の遠くは福島市。他は塩沢町、小千谷市。もっとも近いのは、信濃川を挟んで隣の私でした。

親戚の方から新しい指示が出て、男だけ三人、近くの別の場所に移りました。クルマ五台分のガレージで、倒壊はまぬがれていました。屋根はひしゃげ、柱は斜めに傾いています。そのガレージに溜った泥の排除でしめた。スコップで泥を土嚢袋に詰めます。すでに汚泥化が進み、かなり臭い上がっています。奥の一個所は電気店の倉庫だったという話で、段ボール箱に包

装されたまま新品電気製品が山積みになっていきます。水に浸かった家財道具は、ほとんどがゴミとして積み上げられています。それらは、自衛隊の大型車両が処分場へ搬出します。テレビで見ていると、もったいないな、という気がしますが、ここに初めて判りました。染み付いた泥の臭いは、どんなに拭いても落ちないので、自衛隊は重機やトラックの他に、バキュームカーも持って来ました。これはゆるい泥を排除するのに有効です。真夏の太陽が照り返し、気温がぐんぐん上がり、車両が通過するたび、凄まじい埃が舞い上がり、強烈な汚泥の臭いが鼻を突きま

す。昼食に携行した二個のおにぎりは、胸一杯で一個しか食べられませんでした。

東京都	外山 勝志	金五千元	船橋市	清水 規行	金五千元
〃	渡辺 宏平	金五千元	大和市	矢部 徳治	金三千元
〃	小黒 正夫	金五千元	新潟市	寺泊 分	金三千元
〃	外山 浩章	金三千元	〃	〃	〃
〃	斎藤 トシ	金三千元	〃	〃	〃
〃	古村 政雄	金三千元	〃	〃	〃
〃	酢谷 進	金五千元	〃	〃	〃
横濱市	松本カズ子	金五千元	〃	〃	〃
川崎市	山野 眞弘	金五千元	〃	〃	〃
〃	武沢 寛	金五千元	〃	〃	〃
海老名市	石野 セツ	金三千元	〃	〃	〃
函館市	二見 晴義	金五千元	〃	〃	〃
日野市	清水 昭	金一万元	〃	〃	〃
府中市	長部 仁	金五千元	〃	〃	〃

誌代御後援 敬称略・順不同

青木 信	金三千元	青木 信	金三千元
原田 松治	金三千元	原田 松治	金三千元
玄徳 寺	金五千元	玄徳 寺	金五千元
川島 三重子	金三千元	川島 三重子	金三千元
長谷川 哲夫	金三千元	長谷川 哲夫	金三千元
中川 喜代	金三千元	中川 喜代	金三千元
宮村 利郎	金三千元	宮村 利郎	金三千元
野村 栄一	金三千元	野村 栄一	金三千元
渡辺 義隆	金三千元	渡辺 義隆	金三千元
五十嵐 金十郎	金三千元	五十嵐 金十郎	金三千元
磯浦 正光	金五千元	磯浦 正光	金五千元
外山 健	金五千元	外山 健	金五千元
佐藤 賢吉	金三千元	佐藤 賢吉	金三千元
佐藤 賢一	金三千元	佐藤 賢一	金三千元
佐藤 賢一	金三千元	佐藤 賢一	金三千元
渡辺 哲夫	金三千元	渡辺 哲夫	金三千元
渡辺 一雄	金三千元	渡辺 一雄	金三千元
渡辺 昭三	金三千元	渡辺 昭三	金三千元
納谷 一徳	金五千元	納谷 一徳	金五千元
解良 基一	金三千元	解良 基一	金三千元

小波会納涼句会詠草

兼題 初秋・露草他当季

初秋の

海へすとんと夕日落つ

中村 流瓢

初秋の

風のささやき朝湿り

江原 汀子

初秋の

風わが髪をなぶりゆく

斉藤 紫苑

初秋や

型粋大工の釘の音

内藤 蓮子

地引網

引けば大漁秋初め

加勢 白汀



賑わっていた海水浴場も台風一過人影が絶える。
波打際へ進出した浜茶屋は波に洗われて浸水。
店終いととなる。 中央海水浴場



荒れた翌日はエゴ拾いで賑わう浜も、さすが台風の間とは人っ子一人いない。
山田集落は波丸かぶりの状態。 山田海岸



港では漁船、釣船、工事船が肩を寄せ合って避難、ひたすら台風の通過を待つ。
真夜中から猛烈な風と波になった。

一族の

墓苔むしてはたる草

水沢 蕉子

露草や

足元照らす庭園灯

小形 美代

露草や

老舗に掛ける藍のれん

外山 きよし

露草を

摘んで馳走のおままごと

外山 海子

露草や

我に真向こう花の色

小島 温石

手に提灯

思い思いの墓参

竹内 霍山

ひっそりと

孫が添寝の昼寝覚め

大越 碧水子

窓下の

小風に生きて盆迎ふ

小島 冬扇

良寛の

夕日が丘や虫涼し

能登 頑牛

あとがき

蟬は暑い夏が好きらしく今年
は例年になく蟬の抜け出した穴
が沢山目につく。ミンミン蟬ア
ブラ蟬ツクツク法師ヒグラシと
鳴きついで夕方カナカナの声を
聞くようになると夏の終りを感じ
じふっと学校時代のやり残しの
夏休み帳などのことが思い出さ

れたりする。夕風も随分涼しく
なり芙蓉の花がゆらゆら揺れて
いる中でほんやり過ぎた夏の日々
を思ったりしていた過去の光景
がよみがえってくる。
台風の前夕焼けは特別であ
る。海も空も一切の風景がもや
もやとした夕映えの中に静まり
かえって自然と台風の接近が予
感されて来る。かつてはそんな
中であちこちからトントンと補
強の釘音が聞こえてきたも
のが今それはない。ざわざわ
と先触れの風が吹き過ぎるとふ
っと息をするように重い風がの
しかかるように窓に当たってくる。
台風の子報と競い合うように簾
茶屋がたたまれて夏が終わってゆ
く。荒れの静まるのを待つて磯

毎月二十日発行

寺泊ふるさとだより

誌代税共(百円)

編集人 中 村 興 樹

発行人 新 潟 県 寺 泊 町

発行所 新 潟 県 寺 泊 町

ふるさとだより

郵便番号 九四〇一二五〇二

ダイヤル局番 〇二五八七五

電話 二〇二八九番

振替番号 〇〇六二〇三三七四五
印刷所 吉野印刷株式会社